

松下幸之助の歩み

年	年齢	事項
明治27年	0歳	11月27日 和歌山県で8人兄弟3男末っ子として出生
明治37年	9歳	小学校を4年生で中退、大阪の宮田火鉢店に丁稚奉公
明治38年	10歳	五代自転車商会に奉公
明治43年	15歳	電気事業に憧れ、大阪電燈(株) (現・関西電力(株))に見習工として入社
大正3年	19歳	結核の初期である肺尖カタルを患う
大正4年	20歳	井植むめの(19歳)と結婚
大正6年	22歳	大阪電燈(株)を退社、独立起業
大正7年	23歳	大阪市北区西野田大開町(現・大阪市福島区大開2丁目)で松下電気器具製作所を設立
大正11年	27歳	第一次本店・工場を竣工
昭和2年	32歳	角型ランプに初めて『ナショナル』の商標を付けて発売
昭和4年	34歳	第二次本店・工場を竣工、松下電器製作所に改称 『綱領・信条』を制定
昭和7年	37歳	第1回創業記念式典を実施、事業の真使命を発表
昭和8年	38歳	本店・工場を大開から大阪府北河内郡門真村(現・大阪府門真市)に移転、事業部制を実施
昭和10年	40歳	松下電器製作所を株式会社組織とし『松下電器産業株式会社』を設立
昭和21年	51歳	GHQより7つの制限指定を受ける 11月3日、PHP研究所を創設
昭和30年	60歳	所得番付1位となる(39年間でベスト10入り30回)
昭和31年	61歳	5か年計画を発表
昭和34年	64歳	アメリカ松下電器を設立
昭和36年	66歳	松下電器産業(株)社長を退任、会長に就任 京都・東山山麓の真々庵でPHP研究を再開
昭和39年	69歳	熱海で全国販売会社・代理店社長懇談会を開催 営業本部長を代行として、経営の指揮にあたる
昭和48年	77歳	『人間を考える—新しい人間観の提唱』を刊行
昭和48年	78歳	松下電器産業(株)会長を退任、相談役に就任
昭和55年	85歳	日本国家の将来を憂い、21世紀を担う真のリーダーを育成しようと (財)松下政経塾を開塾
平成元年	94歳	4月27日午前10時6分、死去



五代自転車商会の奥様と共に(10歳)



創業当時の松下幸之助(23歳)



戦後の復興に励む松下幸之助(51歳)



PHP誌の創刊号(52歳)



晩年の松下幸之助(88歳)

PHPとは『PEACE and HAPPINESS thorough PROSPERITY』の頭文字で、『物心両面の調和ある豊かさによって平和と幸福をもたらそう』という意味です。お互いが身も心も豊かになって、平和で幸福な生活をおくる方策を、人間の本质に照らしつつ、それぞれの知恵と体験を通じて提案し考え合う一つの場として、月刊誌『PHP』誌が昭和22年4月に創刊され、現在に至っています。